



名前

日付

月

日

答え合わせのポイント・・・自分に厳しく行おう😊

①答え合わせは色ペンで行うこと ②間違いはその場で訂正すること ③点数の記入は不要

例文中の傍線部を和訳しなさい

## ▼例文

- 1 76-1 いたづらに人生を送っている間に年をとってしまった。
- 2 76-2 その女は弱々しい感じで、今にもいたづらになりそうだ。
- 3 77-1 彼はさうなき料理人である。彼の腕前をみなが見たいと思った。
- 4 77-2 尊い命をさうなく捨てるべきではない。
- 5 78-1 つとめて、格子を上げると一面に雪が降っていた。
- 6 78-2 その夜は女の部屋に泊まり、つとめて出かけなされた。
- 7 79-1 秋が来たと目にははっきり見えないが、風の音でふとおどろく。
- 8 79-2 悪夢におどろきて見ると、灯していた明かりが消えていた。
- 9 80-1 父の不機嫌な声に怯えた幼い息子は、おどろおどろしく泣く。
- 10 80-2 夜の嵐の音は不気味で、おどろおどろしく響く。
- 11 81-1 天皇の妻であれば多くの女房たちがかしづくであろう。
- 12 81-2 奥ゆかしい姫君に育つようと、親たちがかしづきなさる。
- 13 82-1 大臣は着物を脱いで、歌人にかづけなされた。
- 14 82-2 うまい歌を詠んだので、その歌人は多くの着物をかづく。
- 15 83-1 父君は姫君たちを次々とついでに従って結婚させる。
- 16 83-2 ここでお会いしたのをついでに、仲良くしていただきたい。
- 17 84-1 出家を決意した男は、妻子を捨てて突然うせてしまった。
- 18 84-2 手厚い看病の甲斐もなく、殿はついにうせなされた。
- 19 85-1 庭先に入ると、香の香りがいうに漂ってきた。
- 20 85-2 物言いが落ちついていて、幼いけれどもいうに聞こえる。
- 21 86-1 日もやうやう暮れてきたので、川のほとりで野宿をした。
- 22 86-2 恋愛を題材にして人間のやうやうの感情を描こうとする。
- 23 87-1 女は小さな召使童をひとりぐして、家を出ていった。
- 24 87-2 親の反対を押し切って、娘は名もない男にぐしてしまった。
- 25 88-1 悲しいと言葉にするのをしのびて、女は黙って背を向けた。

## ▼現代語訳

- 1 無駄に
- 2 (今にも) 死に (そうだ)
- 3 比類ない・またとない
- 4 無造作に
- 5 早朝
- 6 翌朝
- 7 気がつく
- 8 目が覚めて
- 9 はなはだしく
- 10 恐ろしく
- 11 大切に世話する
- 12 大切に育てる
- 13 褒美を与える
- 14 褒美をいただく
- 15 順序
- 16 機会
- 17 消える・いなくなる
- 18 死ぬ
- 19 優雅に
- 20 優れている
- 21 だんだん
- 22 さまざま
- 23 連れて行く
- 24 結婚する
- 25 我慢して

- 26 88-2 しのびて愛し合う女の所へは、顔を隠して通っていく。
- 27 89-1 鶴はこちたき姿であるが、天にも届くような声がすばらしい。
- 28 89-2 人の噂がこちたくなったとしても、私の心は変わらない。
- 29 90-1 高雄山の奥に、おこなひに専念している僧がいた。
- 30 90-2 私も関白のようにおこなひして、すばらしい人になりたい。
- 31 91-1 つれづれなる雨によって、川の水かさが増している。
- 32 91-2 もし物語がなかったら、つれづれを慰めることができない。
- 33 92-1 人のことを非難し、見下げたようなことを言う人はいとほし。
- 34 92-2 若くして貧しい生活をしている女は、たいへん いとほし。
- 35 93-1 あの人も同じ月を見ているだろうかと、満月をながむ。
- 36 93-2 あの名歌人・在原業平がながめた三河国八つ橋である。
- 37 94-1 なかなかなることを学んでも、何の役にも立たない。
- 38 94-2 顔がほっそりと痩せてしまったが、なかなか美しく見える。
- 39 95-1 私の結婚について、まめなる人々がさまざまな忠告をしてくれる。
- 40 95-2 まめなる物を贈ってもつまらないので、楽しい物語本を贈る。
- 41 96-1 梨の花は花びらの端に趣深いにほひがほのかについている。
- 42 96-2 この女君のにほひにまさる女性はひとりもいなかった。
- 43 97-1 船頭童が返歌を詠むというので、をかしと思って詠ませた。
- 44 97-2 をかしき額のはえ際の女の姿が、簾越しに見え覗く。
- 45 97-3 夕月夜のをかしきころに、使者に恋文を持たせて届けさせる。
- 46 98-1 宮中で行われる行事は、おもしろく興ある。
- 47 98-2 霜枯れの庭の様子は、絵に描いたように美しくおもしろし。
- 48 99-1 昔、ある男が陸奥国にすずろにさまよい行き至った。
- 49 99-2 顔の美しい女だったので、男はすずろに恋しくてしかたがない。
- 50 99-3 正しい学問の知識はないが、すずろなることは知っている。
- 51 100-1 漢詩のおぼつかなきところどころを解説してくださる。
- 52 100-2 母を亡くした若宮はたいへんおぼつかなく涙がちであった。
- 53 100-3 昨夜の共寝から、朝昼のわずかの間も恋しくおぼつかなく思う。

- 26 人目を避けて
- 27 仰々しい
- 28 うるさく・わずらわしく
- 29 修行
- 30 勤行
- 31 長く続く
- 32 所在なさ
- 33 いやだ
- 34 気の毒だ
- 35 物思いに耽る
- 36 朗詠した
- 37 中途半端な
- 38 むしろ・かえって
- 39 誠実な・まじめな
- 40 実用的な
- 41 美しい色
- 42 気品・威光
- 43 興味深い
- 44 美しい
- 45 趣深い
- 46 興味深い
- 47 趣深い
- 48 なんとなく
- 49 おやみに・やたらと
- 50 つまらない
- 51 はっきりしない・わからない
- 52 不安だ
- 53 待ち遠しい